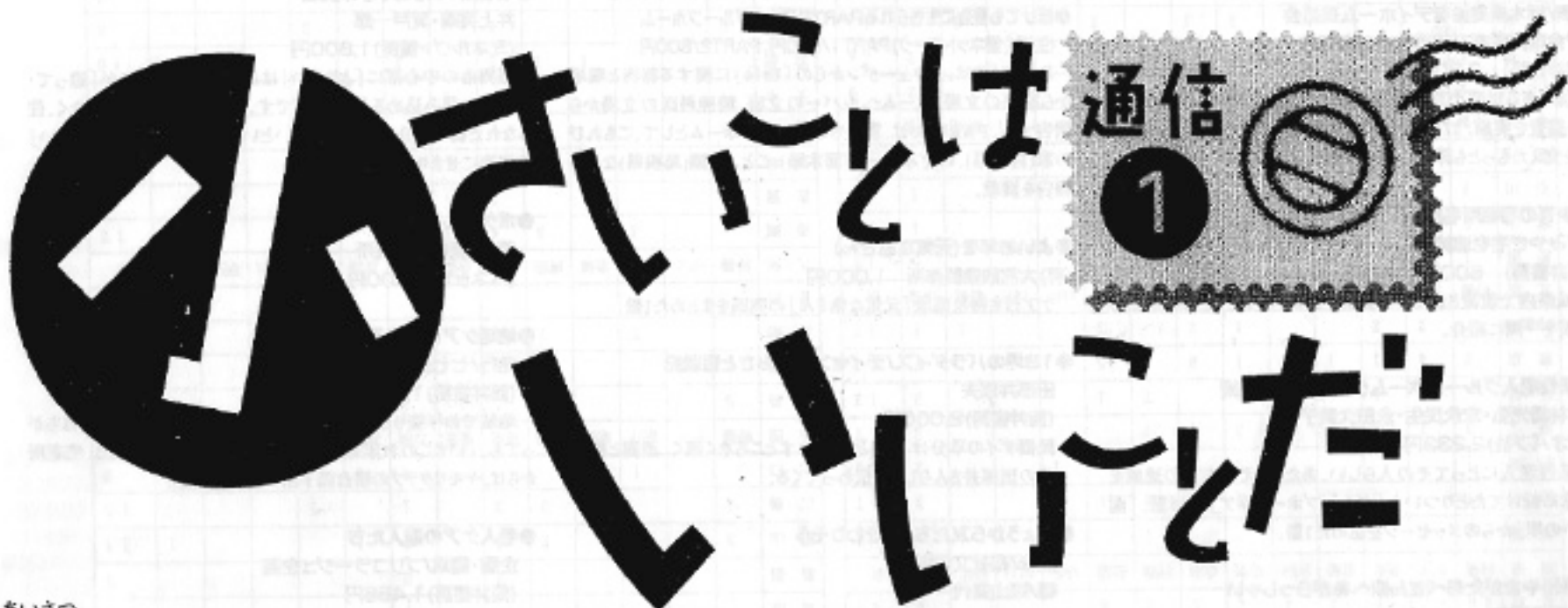


全国痴呆症高齢者グループホーム研究交流フォーラム'98



あいさつ

参加者の皆さま、この度は「全国痴呆症高齢者グループホーム研究交流フォーラム'98」に遠路お出かけくださりありがとうございました。「全国フォーラム」の名にふさわしく、46都道府県から約700名の参加を得て開催できましたことは、嬉しい悲鳴とともに喜び勘まされています。

この度のフォーラムは、65歳以上の7%と言われる痴呆症高齢者の方々が、住み慣れた地域で可能な限り生活し続けていただくために、全国各地で先駆的に実践されている方々の話を聞き、痴呆症高齢者の「生活の場」や「支援のあり方」を研究・交流・情報交換をし、今後のグループホームケアの方向を展望するとともに、推進するための都

道府県や全国でのゆるやかなネットワークを進めることを目的に開催されたものです。この二日間のフォーラムが日本におけるグループホームケアのさらなる発展の契機となり、全国にその地域に合うグループホームが創られんことを願います。

「全国痴呆症高齢者グループホーム研究交流フォーラム'98」実行委員長

築茂 三郎

●分散会「グループホームの実践課題と方向」で話し合いたいテーマ●

申し込む時点で、参加者の皆様から記入いただいた分散会で話し合いたいテーマを、事務局が整理したものです。今後実施を考えている方が参加者の大半ですので、実施に先立つ課題が多くなっています。

また、本日受付でお預りいただいた資料の中には「分散会のテーマに関するアンケート用紙」が

入っています。短い時間ではありますが内容のよき分散会を進めたいと思いますので、パネルディスカッション及び座談会をお楽しみになった時点で、明日の分科会で話し合いたいテーマを、お手数ではありますが再度ご記入いただきたいと考えています。その結果は明後日発行いたします「通信第2号」でご報告いたします。

●グループホーム（宅老所）の意義について

- 1) グループホーム（宅老所）の意義を再確認したい
- 2) 「グループホームケア」の理念と方法が知りたい
- 3) グループホーム（宅老所）の効果と課題は何か

●地域について

- 1) 地域の中で、住民に理解を得ていくためにはどうすればよいのか
- 2) 地域の住民に協力を得ていくためには、どうしたらいいのか
- 3) デイサービスのみならず、ショートステイや食事サービスなどをきめた、地域の拠点づくりをしたい

●利用者の人数について

- 1) 少人数（小規模）とは、何人くらいが限度なのか

●利用の対象と程度について

- 1) 痴呆症高齢者のみならず、子どもや障害者も共生しているグループホーム（宅老所）に関心があります
- 2) 中程度が対象とされているが、どの程度の人までがグループホーム（宅老所）で生活できるのか
- 3) 脳血管性とアルツハイマー型の痴呆の方が、双方ともに穏やかに生活するためにはどうしたらよいのか

●スタッフについて

- 1) 適正な人数は？
- 2) 適正な勤務シフトは？
- 3) 必要なスタッフをどのように確保するのか
- 4) ストレスを解消する方法は？

●資質の向上（研修・学習）について

- 1) スタッフの研修が必須
- 2) 資質の向上のための工夫や学習の方法は？

●建物（空間）について

- 1) どの程度の大きさが必要なのか
- 2) 個室のあり方を含め、どのような設備が必要なのか
- 3) 自宅の廃敗が困難となった場合の場所の確保はどうしたらよいのか

●一日の過ごし方について

- 1) 一日のプログラムの内容は？
 - ① 余暇の活用の仕方
 - ② 夜の過ごし方
- 2) 利用者に役割を持って仕事をさせていただこうと考えていますが、どうでしょうか
- 3) ケアのポイントは何か？
- 4) デイサービスとグループホームの日課は、同じでいいのか
- 5) いわゆる「閉居行動」の対応はどうしているのでしょうか

●サービスの多機能性について

●ボランティアについて

- 1) ボランティアの参加・協力の状況とその内容を知りたい

●事故対策について

●痴呆症高齢者の権利擁護について

- 1) 小規模ということで、さらに密着化できる可能性があるグループホーム（宅老所）での、痴呆症高齢者の権利擁護はどのように考えていくのか
- 2) オンブズマンの必要を感じている

●関係機関・専門職との関わりについて

- 1) 医療機関
- 2) 保健所
- 3) ヘルパー

●運営（経営）について

- 1) 自主事業のグループホーム（宅老所）の運営の状況は？
- 2) 国庫補助グループホームの運営状況は？
- 3) 公的助成にはどのようなものがあるのかを教えてください
- 4) 特に自主事業のグループホーム（宅老所）の場合、利用者の負担を軽減するための方法は？

●公的支援のあり方

- 1) 行政などの公的な機関は、どのように関わっていったらいいのか
 - ① 補助金のあり方
 - ② 研修のあり方

●民間企業から

- 1) 民間企業に望まれていることは何か
- 2) 福祉用具供給者が、痴呆症高齢者をどのようにとらえ、ケアを考えていったらいいのか

●グループホーム（宅老所）の立ち上げの方法について

- 1) 「これは注意した方がいい」ということは？
- 2) どのような手続きや準備（人・モノ・金）が必要なのか
- 3) 公的支援を受けるには、どうしたらいいのか
- 4) 地域住民を巻き込んだ立ち上げの方法は？

●特別養護老人ホームのグループホームの立ち上げについて

- 1) 特養でのグループホームの運営の実際について？
- 2) 特養でグループホームを進める環境づくりはどのようにしたらいいのか
- 3) 特養がグループホームをつくるための手順が知りたい
- 4) グループホームの生活指導員の役割は？
- 5) 大規模施設をユニット化して、少人数のケアをするためにはどのようにしたらいいのか
- 6) 特養（公的施設）が自主運営のグループホーム（宅老所）の足かせになっているのではないのか

●介護保険導入後のグループホーム（宅老所）について

- 1) 介護保険導入後の自主運営のグループホーム（宅老所）のあり方は？
- 2) 介護保険適用型のグループホームとなるための基準は？
- 3) 介護保険導入後は、グループホームは経営的に成り立つのでしょうか



「フォーラム」開催中の2日間、
会場内に「グループホーム・宅老所グッズコーナー」と「福祉関係図書の展示販売コーナー」を設けています。
ここでは、主なグループホーム・宅老所関係図書を紹介します。(定価は税別です)



●全国デイホーム・宅老所・グループホーム案内

企画/栃木県高齢者デイホーム連絡会
編/全国高齢者小規模ホーム研究会
(簡井書房) 2,300円
全国にある民間小規模施設250か所に、2年間にわたってアンケート調査を実施。27項目にもおよぶ詳細な調査票を元に分析とルポを交えたもっとも詳しく、新しい地域ケアのガイドブック。

●みやぎの宅老所名鑑

編/みやぎ宅老所連絡会
(簡井書房) 600円
宮城県内で展開されている民間・公設・企業さまさまな形態の宅老所を一同に紹介。

●痴呆性老人グループホームケアの理念と技術

編/林純光弘・末永民生・永田久美子
(バオバブ社) 2,233円
痴呆性老人にとってその人らしい、あたりまえの生活の達成を追い求め続けてきた「グループホームケア」の形態、「商社あいの里」からのメッセージを込めた1冊。

●宅老所やまがたあべさん家へあがらっしゃい

著/阿部昭典
(プリコラージュ) 1,500円
普通がいちばんと言うあべさん家の日常をたどりながら、深いケアに触れてください。「厚紙・民間デイの光りと影」も必読。ホッと元氣の出る本ができました。フォーラムで初売りです。

●あべさん家だより(2)

編/宅老所やまがたあべさん家
(宅老所やまがたあべさん家) 1,000円(税込)

●ほけても普通に生きられるPART1スウェーデンのグループホーム

●ほけても普通に生きられるPART2日本のグループホーム
(生活介護ネットワーク)PART1/500円、PART2/800円
PART1では、スウェーデンからの「痴呆」に関する報告と現場から家族の立場、ホームヘルパーの立場、精神科医の立場から報告する。PART2では、私たちのグループホームとして、こもれびの家(宮城県)、のぞみホーム(栃木県)、ことぶき園(島根県)などの報告を掲載。

●よいお年を(元気な亀さん)

(有)大宮映像製作所 1,000円
ケア付き福祉施設「元気な亀さん」の実践をまとめた1冊。

●18坪のバラダイス/デイセンターみさと奮闘記

田部井康夫
(簡井書房) 2,000円
民間デイの草分け「みさと」をあますところなく描く。頑固と紙一重の田部井さんらしさが伝わってくる。

●きょうから友だち、ゆきわりそう

監修/福祉文化学会
編/荒山真代
(中央法規出版) 2,233円

●住民の力で支える痴呆性老人宅老所「駒どりの家」物語

「駒どりの家」運営委員会
(ヒューマンブックレット) 600円

●痴呆老人のしあわせのために

痴呆の常識、非常識
編著/きのこエスポール病院
(日総研) 2,000円

●宅老所「よりあい」の挑戦

井上英博・賀戸一郎
(ミネルヴァ書房) 1,800円
福岡市の中心部に「よりあい」があります。お年寄りが「通って・泊まって・住み込める」第2の家です。遠く離れた特養ではなく、住みなれた街で自分らしく暮らしたいという願いにこたえる「よりあい」の秘密にせまります。

●ボケなんて怖くない

編/介護情報研究所
(ベネッセ) 1,400円

●地域ケアに関する7つの発言

発行/七七舎
(簡井書房) 1,000円
地域でお年寄りに関わるさまざまな職種からの発言。職種はちがっても、「いまこのお年寄りを支えたい」という思いは同じ。宅老所からは、ヤモリクラブの朝倉義子さんが発言。注目。

●老人ケアの達人たち

企画・編集/プリコラージュ企画
(簡井書房) 1,456円

●老人ケアの達人たちII

企画・編集/プリコラージュ企画
(簡井書房) 1,200円
宅老所よりあいても載っている。宅老所ができるまでのエピソードは新鮮。それがこんなふうにして宅老所はできたのか...と妙に納得。

●スウェーデンの高齢者福祉最前線

奥村芳孝
(簡井書房) 2,000円

都道府県別所属別参加者一覧 (平成10年2月23日現在)

都道府県	特養	デイ	在介	老健	病院	宅老	企業	行政	社協	NPO	福祉	研究	その他	計
北海道	1					3	2	8				1	2	17
青森	3		1			1		3					1	9
岩手	0	2						1		3			4	10
宮城	20	2	5	1	3	35	14	17	20	18		1	15	162
秋田	4				1			1	3				2	11
山形				1		3							5	12
福島	20		1	3	4	4	1	2	6				4	45
関東	特養	デイ	在介	老健	病院	宅老	企業	行政	社協	NPO	福祉	研究	その他	計
茨城	4	2	1						1				1	9
栃木	7			2		4	2	2	1				3	17
群馬	1					5				1			2	9
埼玉	8	1		1		3	1	1					2	17
千葉		1	1			4		2	1				3	12
東京	8	4	1	1	2	1	8	8	5			6	7	51
神奈川	7	2	2			1	2		1			1	1	17
北陸	特養	デイ	在介	老健	病院	宅老	企業	行政	社協	NPO	福祉	研究	その他	計
新潟	1	3		2	4			1					5	16
富山	5	1	1			3	1		3				1	15
石川	2												1	3
福井			1											1
中部	特養	デイ	在介	老健	病院	宅老	企業	行政	社協	NPO	福祉	研究	その他	計
山梨	3				1	2			1				2	9
長野	9	6	1			1		4	11				2	34
岐阜	3					2	1		2			2	1	11
静岡	6								3				1	10
愛知	2	1		2		4								10
三重							2							2
近畿													1	1

都道府県	特養	デイ	在介	老健	病院	宅老	企業	行政	社協	NPO	福祉	研究	その他	計
京都	2	1				4			1			1	1	10
大阪	9						1				1		1	12
兵庫	4					1		3					2	10
奈良							1	3						4
和歌山	1								7					8
中国	特養	デイ	在介	老健	病院	宅老	企業	行政	社協	NPO	福祉	研究	その他	計
鳥取									7					7
島根		1					2		2					5
岡山	2	1				2	3	3	1				1	13
広島	4					3	2	1		5				15
山口			1						4	3		1		9
四国	特養	デイ	在介	老健	病院	宅老	企業	行政	社協	NPO	福祉	研究	その他	計
徳島	5								2	3				10
愛媛	1	2				2								5
高知			3		1	4							1	9
香川														0
九州	特養	デイ	在介	老健	病院	宅老	企業	行政	社協	NPO	福祉	研究	その他	計
福岡			1		3	4	3						1	12
佐賀							3							3
長崎	3					1		3						7
熊本	3		1		3								1	8
大分							2							2
宮崎				1	1	5		3						10
鹿児島	2						3			3				8
沖縄	2													2
合計	159	31	21	18	54	142	39	89	62	33	7	7	84	726
比率	21.9	4.3	2.9	2.5	7.4	19.5	5.4	12.2	8.5	4.5	1.0	1.0	11.6	100

※このほかに参加者として、25人参加。